

松井田高等学校 学校評価一覧表①（令和3年度版）

（様式1）

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 生徒の実態を踏まえた教育課程・授業計画を設定していますか。	① 少人数・コース制等の目標や内容を聞き、自分にあったコース選択ができていると感じている生徒が80%以上である。	○ 年度ははじめだけでなく、様々な場面でシラバスを使いながら、学習方法および評価の規準、重点項目をわかりやすく示し、目標を持って主体的に取り組めるよう指導する。		A	A	各コース(2・3学年)および習熟度別学習グループにおいて、機会あるごとに動機づけを行いながら、それぞれの目標達成に向けた指導を徹底させていく。	B	A	少人数制・コース制が本校の生徒の実態に合致していると思われる。今後もよりよいコース制と習熟度別少人数学習グループのあり方を検討していく。
	2 地域社会と連携した特色ある教育活動(総合的な探究の時間等)を行っていますか。	② 「ハートフル松高(地域学習・体験学習・ボランティア活動等を推進している学校環境)」に満足し、自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は80%以上である。	○ 教職員の声かけで校内外のボランティア活動に多くの生徒を関わらせる。成果はMV Cニュースやホームページ等に掲載し、褒める場面を設けて生徒の自己肯定感を醸成する。		B	A	コロナ禍で地域と連携したイベント等への参加が制限されるなか、観光振興に関わる清掃活動など、新たな地域連携の形を模索した。今後はより多くの生徒が参加できるよう、活動内容を工夫していきたい。	B	A	総合的な探究の時間や家庭科授業、MV C活動において、地域教材や地域人材を活用し、地域への理解を深め、地域の方々とふれあう機会を持つことができた。MV C活動については参加者が限られてしまう傾向がみられたので、多くの生徒の参加を促すため啓発に努めたい。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 本校での授業に対して、生徒の80%以上が満足している。 ④ コース制の特徴を活かした資格試験や検定試験に、80%以上の生徒が積極的にチャレンジしている。	○ 各教科でアクティブラーニングの視点に立った指導と、学び合いや学び直し学習を工夫することで、学習のよさが実感できる授業を展開する。 ○ 学年団と教科担当が連携をとりながら、生徒に積極的な資格取得を促し、効果的な指導を模索していく。		A	A	アクティブ・ラーニングの視点に立った協働学習を可能な部分で取り入れる。ICTの効果的な活用を意識しながら指導の工夫を図る。 今後もモチベーションを高揚すべく教科や学年で工夫を試みながら、生徒のスキルアップを図っていく。	A	A	今後もアクティブ・ラーニングの視点に立った協働学習を継続していく。教員相互の授業見学を有効に活用し、生徒の実態に合った指導の工夫を図る。 資格取得の指導や学習評価の工夫を通して、生徒が自らの学力の向上を実感できるようにする。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 学力が身に付いてきたと感じている生徒が80%以上である。 ⑥ 授業に意欲的に取り組むようになってきたと感じている生徒が80%以上である。	○ 教科の学習活動だけでなく、学校生活の様々な場面で、学びの前提となる学習意欲や自己肯定感の醸成を図る。 ○ 共通で取り組む課題や小テストの他、自分の目標にあった課題を各自考えさせ、学習習慣の確立につなげる。 ○ 学習の重要性を各教科の授業で繰り返し伝え、生徒の取り組みを随時スモールステップで評価し達成感につなげる。		A	A	節目ごとの課題や問題解決型学習の設定など、各教科ごとに工夫を凝らしながら、学習目標を到達できるよう指導していく。 生徒の興味を引き出せるような課題を見出し、授業時間内および家庭学習課題等を与え、取り組ませていく。 スタディサブリを活用して家庭学習習慣を確立させる。	B	B	引き続き、学びの前提となる学習意欲の向上や自己肯定感の醸成に工夫を図る。 各教科活動において、学習の重要性を繰り返し伝えると共に、生徒が身近に感じ、生徒自身と関わりのあることを学習課題にできるよう心掛ける。 家庭学習に結びつけられるよう、生徒の実態に合ったスタディサブリの配信方法を工夫する。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 学校生活やいじめ防止について組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦ 毎日充実感を持ってクラスや学校生活を送っている生徒が80%以上である。 ⑧ いじめの発生防止に努めるとともに、早期発見に向けた取組を積極的に行っている。	○ 集会等で部活動やボランティア活動の活躍状況や日頃の様子などを紹介し、少しでも興味関心を持って参加できるよう促していく。また、教職員間で生徒情報を共有し、個に応じた適切な指導を行う。 ○ HRや学年・全校集会等で、いじめ問題について考えさせる機会を設けると共に、生徒の何気ない会話にも日頃から耳を傾け情報収集し、全教職員及び家庭と連携して、いじめ防止・いじめ解消の手立てを検討し、実践する。		A	B	コロナ禍であり、1学期は、まずまずの学校生活が送れた。2学期以降、分散登校から始まり心配な状況であるが、学校行事や部活動、ボランティア等の活動を支援して、充実した生活を送れるようにする。 規則など生徒に考えさせ主体的に決めさせる等、主体的な活動を促したい。 引き続きコミュニケーション能力の向上を目指し、指導していく。	C	B	今年度の学校生活は、コロナウイルスの感染状況により日々対応が変化する状況であった。中盤、社会の感染状況が改善されたタイミングで体育祭等の行事が内容等、関係者が相当の努力をし、実施できた。今後も行事の実施、部活動なおどは、その都度の対策、対応が必要であると思われるが、対応していきたい。 規則の変更等、生徒を主体的に参加させる方法で改善できた。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 健康維持に前向きに取り組む、基本的な生活習慣を確立して始業や授業に遅刻しないよう努力している生徒が80%以上である。	○ 健康診断や保健便りを通じて健康への意識を高めさせる。感染症予防について発信し、清掃・換気などを徹底させ、清潔な環境で過ごせるようにする。生徒会による登校時挨拶運動を定期的に実施する。長期休業中における生活日誌等をつけさせ、規則正しい生活の指導を行う。		A	A	健康診断で受診勧告を受けた生徒への受診を保健便りで促し、健康への意識を高める。感染症予防が確実に行われるよう係と学年で連携を図り、必要な見回り等適切に行うようにする。生活習慣が乱れがちな生徒をアンケートや登校時間などで把握し、早期に指導するようにする。	A	A	受診勧告を受けた生徒へは保健便りで促すとともに、個別の配布物を再度長期休業前等に渡す。教室環境整美や感染予防のための巡回を、必要が生じたら速やかに行う。生活アンケートや生活日誌等を効果的に活用する方法を考え、規則正しい生活の指導につなげる。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて計画的に取り組んでいますか。	⑩ 自分の能力、適性、関心について客観的に考え、進路希望の実現に向けて、真剣に努力していると自覚している生徒が80%以上である。	○ 進路学習、説明会、講演会、体験学習などを段階的に行い、生徒が自主的に進路について考えられるよう、できるだけ具体的かつ視覚に訴えた指導をする。		A	A	進路行事で事前準備や、提示の仕方、実施時の記録方法、事後の振り返りを充実させる。 進路を実現する上で、それぞれが大切な行事であることをより効果的に伝え、自覚を促すようにする。	A	A	講演会、説明会、発表会、掲示物などで情報提供するだけでなく、自分自身で調べたり考えたり、まとめたりする時間を充実し、自分事として考えられるようにする。
	8 適切な進路情報を提供していますか。	⑪ 進路通信や学年通信を通して、進路に関する適切な情報を得られていると感じる生徒や保護者が80%以上である。	○ 進路情報発信のタイミングや方法を工夫し、効果的な情報提供を行う。		A	B	必要な情報を文書で発信しているが、生徒に配布するだけでなく、目を通す時間を設ける等の工夫が必要である。 文書が保護者の手に渡るよう発信方法を引き続き検討する必要がある。	A	B	生徒により必要な情報を提供できるよう、進路通信や学年通信の内容や発信方法を工夫する。また、様々な方法や機会を通して生徒に情報提供する。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫ P T A総会や保護者会等の学校公開に積極的に参加している保護者は80%以上であり、また、学校からの情報発信に満足している生徒・保護者は80%以上である。	○ 諸行事のPRにメール連絡網を活用し、広く保護者に呼び掛ける一方、Webページの更新を行い適切な情報を発信する。また、MV C活動等とおして地域との協力体制を図っていく。		B	A	PTA総会をはじめ、PTA行事がほとんど中止となり、保護者が来校する機会を設けることが難しかった。その分Webページを充実させ、メール連絡網を活用して、保護者への情報発信に努めたい。MV C活動ではコロナ禍でも可能な地域連携を工夫したい。	B	A	学校からの情報発信に関する保護者の満足度がやや低かったことを踏まえ、学校からの通知の持ち帰りを生徒に徹底させるとともに、メール連絡網での情報発信をさらに充実させる。また保護者や地域の方に松井田高校のwebページを見てもらうための方法も検討していきたい。
Ⅵ 教育のデジタル化に務めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑬ ICTを活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。	○ 校内研修でICTを活用した代表授業を通して活用事例を共有し、各自ができることから実践する。		C	A	分散登校中のリモート授業では、各教員が工夫を重ねクロームブックを活用している。ICTを活用した授業をさらに推進していきたい。	B	A	各教員が工夫を重ねクロームブックを活用している。活用事例の共有方法を工夫していく。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑭ ICTを活用した通知・アンケートに、生徒・保護者の80%以上が満足している。	○ 保護者通知やアンケート集計にICTを活用し、デジタル化による業務の軽減を図る。		B	A	デジタル化が業務の軽減につながるには、今少し時間がかかりそうであるが、できるところから実践していく。	C	A	デジタル化が業務の軽減につながるよう、できるところから実践していく。